京都工芸繊維大学

氏　　名	じ じゅん **時　準**
学位(専攻分野)	博　士（学術）
学位記番号	博甲第 724 号
学位授与の日付	平成 26 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　造形科学専攻
学位論文題目	**中国と日本の『水滸伝』図像における比較研究—陳洪綬と歌川国芳を中心に**
審査委員	(主査)教授　中野仁人 教授　並木誠士 准教授　西村雅信

論文内容の要旨

本論文「中国と日本の『水滸伝』図像における比較研究- 陳洪綬と歌川国芳を中心に」は、序論と、第一章から第四章により構成されている。

「序論」で本論文の目的を述べ、本研究の独自の手法について説明している。すなわち、中国と日本におけるイラストレーションの変遷を捉えることを目的とし、両国で共通して取りあげられて来たモチーフである小説『水滸伝』のために描かれた人物表現を取りあげ、その分析を試みる。

「第一章　中国明代と日本江戸期の『水滸伝』挿絵比較」では、明の時代に相次いで刊行された『水滸伝』に添えられた挿絵の表現に着目し、同じく江戸時代初期に日本で翻訳され刊行された版本の挿絵との比較を試みる。とくに明の容与堂刊本の『李卓吾批評忠義水滸伝』において、その背景の描写や人物のポーズに中国古典演劇の影響があることを指摘する。また、葛飾北斎による『新編水滸伝画伝』の挿絵を取りあげ、その背景描写と人物表現の特殊性を検証している。

「第二章　中国明代と日本江戸期の『水滸伝』人物図像における比較」では、明の画家陳洪綬が描いた『水滸葉子』に注目する。『水滸葉子』とは酒の席で用いられた『水滸伝』をモチーフにしたカルタ状の遊び札であり、『水滸伝』が明時代の一般大衆に広く知れ渡っていたことを示している。その人物表現は、白い余白を大きく扱った白描画で形成されており、そこには当時の権力に対する風刺が込められているとともに、作者独自の『水滸伝』の解釈と内面性を表出していると指摘する。一方、日本では、歌川国芳が生涯のうちに多くの浮世絵シリーズで『水滸伝』を描いている。しかしその表現は独自の解釈と展開を含んでおり、原作を越えた二次創作に該当する発展を見せる。それは歌舞伎に見られるケレン味やダイナミズムを含んでおり、豪華な多色刷りの錦絵で中国へのエキゾチシズムを存分に展開し、江戸の町人を魅了する表現へと昇華させたことを論じている。

「第三章　現代中国と日本の『水滸伝』図像における比較」では、現代の中国と日本のイラストレーションやマンガに見られる『水滸伝』の人物表現を広く取りあげ、前章で分析した表現の影響を検証しながら、古典文学作品の再創作の意義を問う。また現代の CG で作り上げられた写実的な仮想空間が新たな『水滸伝』像を築き上げていることに注目する。

「第四章　結論」では、これまで見た『水滸伝』図像をもとに、中国の文人思想や作者の理想とする人格表現と図像との関係、日本の町人文化と娯楽性、さらに偶像形成の意義を述べ、両国の文化と表現の関連における類似点と相違点を明らかにした。さらに古典的モチーフを現代の表現技術を用いて具現化する過程を検証し、著者自らの作品を紹介することで、この論文を締めくくっている。

以上、本論文は、中国と日本の多岐にわたる『水滸伝』資料をもとに綿密な調査分析を積み重ねることにより、両国の人物表現の特質を明らかにした論文であり、その成果が今日のイラストレーションをめぐる研究に寄与することは明らかである。

論文審査の結果の要旨

本論文は、中国と日本のイラストレーションにおける人物表現の多様性を探ることを目的に、時代の中で共通して両国で繰り返し取り上げられて来た『水滸伝』をモチーフにし、その図像の発展の流れを辿り、両国の比較研究を展開するものである。中国明の容与堂刊本『李卓吾批評忠義水滸伝』の挿絵と江戸の葛飾北斎の『新編水滸画伝』の挿絵、明末期の陳洪綬の版画『水滸葉子』と歌川国芳の錦絵『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』に着目し、両者の図像における人物造形、ストーリーとの関連性の比較を通し、両国の絵師たちの作品に含まれる思想性、文化観の特徴を見る。

これまで、中国では『水滸伝』図像の重要性が指摘されてきたが、中国、日本両国の『水滸伝』図像を比較し、その表現技術と文化との関連の分析は従来なされてこなかった研究方法であり、評価に値するものである。

本論文が独自の価値を有する第一の点は、同一の古典文学の題材を元にしながら、どのように内容を解釈し、自国の文化に照らし合わせた図像を如何に形成したのかを検証し、そして現代にいたる『水滸伝』の図像表現にどのような影響を及ぼして来たのかを明らかにしている点である。

また、独自性の第二点は、当申請者自身がデザインを実践しているという立場からの調査分析であり、具体的なイラストレーション技術との関連の追究は、これまでの史論的な観点からは成し得なかった研究である。

上記のように、本論文は基礎的な作業を踏まえて、さらに独自の視点からの考察を展開したものとして、十分評価に足るものである。

なお、本論文の一部は、いずれも申請者の単著である査読付の以下の７論文（①～⑦）として、すでに公表されている。

①時準：「中国明代と日本江戸の『水滸伝』挿絵の比較研究」安徽省科学教育研究会「美術教育研究」第 74 期　Ｐ20～22（2014 年 4 月）

②時準：「陳洪綬と歌川国芳の水滸人物比較研究」吉林省文学芸術界聯合会「文芸争鳴」第 230 期　Ｐ149～152　（2013 年 9 月）

③時準：「浮世絵師歌川国芳の水滸絵画」河南省美学学会「美術学刊」第 525 期　Ｐ52～53（2013 年 9 月）

④時準：「陳洪綬の水滸絵画及び日本水滸絵画への影響」中華人民共和国新聞出版総署「藝術と設計」第 268 期　Ｐ149～152（2013 年 10 月）

⑤時準：「中国の水滸伝連環画と日本の水滸漫画の比較研究」湖南省芸術研究所「芸海」第 251 期

Ｐ100～102　（2014 年 6 月）

⑥時準 :「戴郭邦と正子公也の『水滸伝』イラスト比較研究」中国科学技術協会「設計」第 202 期 Ｐ112～114（2014 年 6 月）

⑦時準 :「現代中日の水滸画像とゲームの比較」湖北美術出版社「美術文献」2014 年第３期　（2014 年 6 月）

　さらに本論文の研究成果を作品に展開し、以下の賞を受賞している。

⑧時準 :「吉劇経典系列海報」中国高等院校設計作品大賽　一等奨（2014 年 6 月）